

都市圏 P T 調査データの整備と活用*

Person-Trip Survey Data and its Practical Use *

中野 敦**

By Atsushi NAKANO**

1. はじめに

本稿では、わが国の代表的な総合交通調査であるパーソントリップ調査を対象に、その特徴と課題を整理する。特に、ここでは、データ整備と公表、公表されたデータを用いた種々の活用という視点を中心に整理を行う。

パーソントリップ調査は、対象地域に居住する人の定常的な交通の実態を調査する調査である。1967年に、広島において、わが国で初めて実施され、これまでに全国の主要な都市圏ではほとんど調査が行われてきている。調査は、大都市圏や地方中枢都市圏では、概ね10年毎に実施されており、東京、京阪神、中京では既に4回目の調査が行われている。

都市圏の P T 調査は、全ての手段の交通を把握するという特徴から、公共交通を含む総合的な計画検討の必要な比較的規模の大きい都市圏で実施され、地方部の規模の小さい都市圏では、自動車の交通のみを調査する都市 O D 調査が行われてきた。しかし、近年はこれらの都市圏においても、T D M 施策、高齢者への公共交通の提供といった、総合的な交通計画の必要性が高まってきたことから、平成11年度から、都市 O D 調査についても、全ての手段を含む交通を調査することができるようになった。

パーソントリップ調査は、把握する交通現況データに基づいて都市圏の都市交通のマスタープランを策定することを直接的な目的としているが、整備したデータを公表し、交通計画の策定や計画手法の研究などにも広く活用されている。

*キーワード：パーソントリップ調査、総合交通計画

**正員、学修、財団法人計量計画研究所

(東京都新宿区市谷本村町2-9、
TEL03-3268-9911、FAX03-3268-9919)

2. P T 調査データの提供について

(1) データ管理提供の状況

パーソントリップ調査データは、対象地域が複数の都府県に

またがる大都市圏では、国土交通省の地方整備局または関係団体が共同で設置している協議会が、地方の都市圏では調査主体である都道府県が、データを管理している。

東京都市圏においては、東京都市圏交通計画協議会が規約を設けてデータの提供を行っている。データのうち基本的なゾーンの O D 交通量などの基礎的な情報については、調査主体である都道府県市の責任で提供しているが、さらに詳細なデータについては、協議会の事務局で審査を行い、許可されたものについては、集計処理などのデータ提供に必要な実費を負担の上で、提供されている。

(2) データ活用状況

1998年に実施された東京都市圏の第4回 P T 調査の場合、データ提供が開始された1999年から2年間で、約200件のデータ利用があった。

利用者は、都市圏内の市町村等の行政が多いが、交通事業者や大規模都市開発を行う開発者などの民間、研究者にも利用されている。その主な目的は、市町村などでの道路網・新交通システム・駅前広場等の計画、大規模開発に関連する交通計画などであるが、数は少ないが、地震被害の想定といった防災計画関係、保険医療計画の検討といった用途にも活用されている例もみられる。また、学術研究に関しては土木計画を中心とした分野でさまざまな目的で活用されている。

3. データ活用の現状

(1) P T データの特徴と活用の可能性

パーソントリップ調査のデータとしての主な特徴は、以下の2点である。特徴の1点目は、全ての交通手段による交通を把握している点にある。このため、マルチモーダルの関係を考慮した交通計画、交通施策の検討に利用可能である。特徴の2点目は、世帯・個人属性との関係を把握している点であり、このため

交通弱者に対応する交通計画の策定、少子高齢化を考慮した交通課題の検討、さらには、民間でのマーケティングへの活用といった幅広い活用の可能性を有している。

(2) 一般的なデータ活用

これまで、一般的に行われてきたデータ活用を整理すると以下の通りである。

諸計画の基礎資料としての交通実態把握、交通現況分析

- ・ 県、市の総合計画、都市計画のマスタープラン
- ・ その他地域、都市のさまざまな計画 等

都市交通計画の策定、都市交通施策の提案

- ・ 総合交通体系計画
- ・ 市町村等での道路網計画（都市計画道路他）
- ・ 鉄道・新交通システム・モノレール等の計画
- ・ TDM計画
- ・ 駅前広場、駐車場計画
- ・ 大規模開発地区交通計画、大店立地対策 等

都市交通計画、施策の妥当性の説明資料

- ・ 新交通・モノレールの事業妥当性の説明
- ・ 主要幹線道路、広域TDM施策の必要性 等

(3) 都市計画部局以外でのデータ活用

パーソントリップ調査データは、都市計画部局での交通計画に中心的に活用されてきているが、データとしては、より幅広い活用の可能性がある。これまでに実施されている主な活用としては、以下のようなものがある。

大都市圏における鉄道網計画への活用

大都市圏における鉄軌道の整備は、運輸政策審議会の答申に基づいて行われているが、東京などでの運政審では、PT調査データがモデル構築用のデータとして活用されている。

防災計画への活用

パーソントリップ調査は、人の移動を調査しているため、時刻別の人の滞留状況を把握しており、時刻別の被災想定などに活用可能であり、京阪神都市圏で検討事例がある。

4. データ提供に関する課題

パーソントリップ調査データの特徴を生かしたより有効なデータ活用に向けての課題を以下のように考える。

計画策定過程で作成した情報の提供

ネットワーク、人口、予測モデルなどの計画策定の過程で作

成したデータを、交通実態データと合わせて提供することが有効と考えられる。

他の交通統計調査データ等との相互有効活用

道路交通センサス、大都市交通センサス等の交通統計データ、各種観測交通データや交通事業者のデータ等と組み合わせたデータ整備活用が考えられる。

多様な活用に配慮したデータ整備

民間での活用を含めて多用なデータ活用を考慮して、世帯・個人属性別の滞留人口データ等、新たなデータの提供を検討する。

データ提供方法の充実

多くの主体が、簡単にデータを活用できるようにして、データ利用を促進するために、インターネットを通じたデータ提供を行う。

データ利用を促進するための活動

パーソントリップ調査データの有効性や利用方法を、行政内・民間を含めてPRして、データ利用を促進するための活動を行う。

参考文献

- 1) 東京都市圏交通計画協議会：PT調査データ 利用の手引き，2001。
- 2) 東京都市圏交通計画協議会：PT調査データ 利用講習会テキスト，2001。